

3. 来賓挨拶

大阪市都市計画局長 角田悟史氏

本日は、全国エリアマネジメントネットワークシンポジウムが大阪で開催されますことを大変嬉しく思っております。

本日のシンポジウムのテーマは「社会的課題の解決と創造性を高める都市に向けて」とございます。大阪では、「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマとした2025年国際博覧会の開催や、「みどりとイノベーションの融合拠点」を掲げるうめきた2期開発等におきまして、本テーマの具現化を図ろうとしているところですが、その中でエリアマネジメントがどのように貢献できるのかといった点は、本市としましても本シンポジウムで是非検討を深めてまいりたいと考えております。加えまして、インバウンド等の増加が今後も見込まれる中、外国人観光客をはじめ、大阪で働く人にとっても安心して快適に過ごすことのできるまちづくりを進めるにあたっては、より一層のエリマネ活動が必要であると感じております。

大阪市では、既存の法令を駆使し、2014年に全国に先駆けて「大阪版 BID 制度」を創設するなど、エリマネ活動の促進に力を入れてきたところです。昨年、国におきまして地域再生法の改正により、「地域再生エリアマネジメント負担金制度」が創設されたことを受け、いち早く同制度の活用を盛り込んだ「地域再生計画」を申請し、先月23日に全国初で認定されたことは、大変嬉しく思います。これによりエリマネ団体が地域来訪者等利便増進活動計画を提案できることになりましたので、今後、この負担金制度の導入に向けた社会実験の実施などのサポートを行ってまいりたいと考えております。

また、エリマネ団体の皆さんが都市再生推進法人となって、日常的な道路空間の質の高い維持管理を行うには、収支の見込みなどを事前に検証する仕組みがなく、地権者間の合意形成が難しいといった声を聞いております。そのため、大阪市では、本市独自の取組みとして、都市再生推進法人の指定をめざすエリマネ団体が、道路空間での収支等の検証が可能となるような支援スキームの構築をめざし、梅田から難波までの8つのエリマネ団体とで構成する「大阪エリアマネジメント活性化会議」の場においても意見交換を行っているところであり、今後ともエリマネ活動がより活発となるよう取り組んでまいります。

最後になりますが、本日のシンポジウムが、参加者の皆様にとって実りある内容となりますよう祈念いたしまして、私からの挨拶とさせていただきます。